



ものの見方・考え方

○ 人々の価値観が多様化し、情報化や技術革新、グローバル化が著しく進展する中、ともすると一面的になりがちな子供たちの**ものの見方・考え方を広げる**ことは極めて重要です。

○ 「**ものの見方**」については、「**鳥の目**」、「**虫の目**」、「**魚の目**」を働かせることの大切さを各教科等の学習活動を通して実感させたいものです。物事を高所から俯瞰（ふかん）して見る「鳥の目」、近付いて細部を見る「虫の目」、流れをつかんで本質などを見抜く「魚の目」を働かせることは、子供たちのその後の学びや生活に生きて働くはずで



○ 「**考え方**」については、**学びの質を高める思考**を身に付けさせたいものです。いわゆる**クリティカル・シンキングを形成する三つの思考**です。

「**ほかに考え方はないか**」という、多面的・多角的な思考、

「**分かりやすいか**」という論理的な思考、

「**本当にこれでよいか**」、いわゆる「メタ認知」です。

各教科等において、**教師が折々にこうした思考を促し続けることにより、子供が自らの学びの質の向上を実感**するようになれば、やがて子供自ら三つの思考を働かせるようになります。

○ **ものの見方・考え方は人それぞれ異なります。コミュニケーションを交わすことで互いの違いに気付き、認め、高め合う、そうした意欲や態度を、道徳科をはじめ各教科で育みたい**ものです。

リーダーの顔

住友生命保険社長 上山保彦

リーダーは哲学者、戦略家、心理学者、教育者、演出家の五つの顔を持つべきです。そして、部下を率いる際、それぞれのケースでそれぞれの顔を発揮し、みんなの力を引き出していくのが理想。

出典：「成功への名語録」（講談社編 講談社）

※ 五つの顔、スクールリーダーにも必要ですね。